

# 茶話

SAWA

日本茶インストラクター  
協会熊本県支部会報  
平成21年3月30日発行  
第23号  
Part I

## 茶を淹れる楽しさ伝えたい 『みんなで三お茶まつりを』 支部総会で開催を決定

2月28日、県民交流館パレオにおいて県支部通常総会が、県農林水産部農産課宮本課長補佐をお招きして開催しました。

当日は会員28名が出席、総会前にはインストラクターとアドバイザーに分かれて、次年度の活動について意見を出し合い、総会に掛けられました。釜炒り茶や番茶作り体験、人吉でのお茶イベント開催や中学校での授



グループ討議の成果を発表

業、茶関係者の恵を結集して「三お茶まつり」の開催など、昨年の成功をステップにしようとする多彩な活動が計画されました。

「三お茶まつり」については宮本課長補佐からも全面的な協力を約束頂き、協力体制がスタートすることになります。

今回は役員改選も行われ、市川新支部長をはじめ理事も入れ替わり、新体制でのスタートとなります。では、新支部長のあいさつです。

**支部長挨拶 市川辰太**

みなさん！初めまして！この度、支部長になりました市川辰太です。

杉本前支部長とともに副支部長として全国お茶まつり熊本大会に関わった事は自分自身にとって良い経験になりました。何よりも皆さんのチームワークはこれからの支部活動に多大な力になる事を確信しました。

支部活動もその経験を最大限に活かして、お客様にお茶で楽しんでもらえる活動に広げて行きたいと思えます。

そして、なによりも会員みなさんが楽しんで活動する事がお客様にお茶を知ってもらおう最大の効果だと思えます！今年には支部長としての活動として市川家で烏龍茶の製造研修をやりたいと思います！是非、多数の参加をお願い致します。宜しくお願い致します。頑張ってください！



## 「日本一のお茶を楽しむ会」開催

1月24日、今年も茶商協とのコラボレーション事業が開催されました。「日本一のお茶を楽しむ会」と銘打ったイベント、新聞等に告知して参加者を募ったこともあり、経済連ホールに多数の一般消費者を招いて開催しました。詳細については八千代さんよりご報告頂きます。

**活動報告 八千代洋子**

皆様お疲れ様でした。準備などご苦労も多いだろうと思いつつも、いつも何も出来なくてすみません。昨年に続き本年も参加させて頂きました。今回は、五〇名ほどの参加者で、各テーブルに2〜3人県支部会員が付きまわりました。五人の茶商さんからの提供茶を試飲していただき、アンケートに答えていただいた後、おいしいお茶の淹れ方のお話をして、日本一のお茶をすすり茶にしてお楽しみいた

だくプログラムでした。私にとりまして、おいしい茶を飲んでいただけながら、いろいろなお話をお聞きできる楽しい時間でした。最後に県茶業研究所の小野亮太郎氏から、残留農薬等についてのご講話もあり、参加されたお客様には、大変喜んでいただけました。今回は、参加者自身にお茶を淹れてもらう時間を取れなかったものの、回し注ぎの重要性など間近で見えたことができました。また、インストラクターに興味をお持ちの方からのご質問が、お二人の方からありました。

これから、ネットで日本茶検定も始まりますので日本茶への興味、日本茶インストラクターへの関心が高まっているのだと思います、うれしく感じました。その反面、自分を振り返り反省もした一日でした。本当にお世話になりました。



## お茶まつり史上特筆すべき事

（全国お茶祭りを振り返って）  
昨年の全国お茶まつり、少しでも日本茶に関心を持ってもらおうと「日本茶プレミアム」香りの銘茶紀行「日本晩茶紀行」という日本茶喫茶を行った。準備段階では集客に不安があったものの、オープン早々長蛇の列、お昼過ぎにはチケットも完売してしまう程の盛況ぶりに、主催した私たちも驚かされるばかりであった。この企画は需要拡大イベントとして一定の成果を収めたが、お茶まつりの歴史においても意義深いものであったことを指摘しておく。

まず、全国お茶まつりでは出品茶の展示はあるものの、入賞茶を味わう機会はほとんどなく、出品茶は見るものでしかなかった。お茶まつりが消費者にとって身近なイベントであるためには、お茶まつりのメインである品評会、それを味わう機会を作る必要があった。確かに出品茶は特殊な茶であり常用の茶とは異なるので、非日常の茶つまり「ハレの日」の茶として演出が不可欠であり、「日本茶プレミアム」では急須を使わない煎茶道のすすり茶に做った。出品茶を初めて体験された方の反応は「想像のとおり、この感動は茶の需要拡大に結び付くものと考える。」

また、昨年は「やぶきた」が誕生して100年目となる記念すべき年であったが、やぶきたとは全く異なる特性を持つ品種にスポットを当てた。栽培面積の1%がやぶきたとなっており、やぶきたでなければ入賞出来ないと言われるほど、茶品評会がやぶきた偏重を助長してきたところがある。（パートⅡへ続く）

# インスト豆知識

## 釜炒り茶も進化します

(釜炒り茶の甘み)

福岡市内からの観光ツアー客に釜炒り茶を中心としたお茶講座をやっていますと、「昔、釜炒りをやった事がある」という方が数名あり、昔はどうだったのか、今はどうなのかという話から釜炒り茶の今昔物語へと発展することになります。

釜炒り茶は昭和30年前後から機械化が進みました。一足早く機械化・大規模化した煎茶や他茶種は、品質の均一化した良質茶生産を成し遂げましたが、釜炒り茶のそれはなかなか進まず、各工場によって品質のバラつきがあります。反面、工場独自の個性あるお茶が出来ているという面白さがあります。

それでも、以前の釜炒り茶と今の釜炒り茶は外観や内質などに違いがあります。「昔の釜炒り茶

が良かった」とおっしゃる方が時々あります。昔のままのお茶では時代についていけないと、変わらざるを得ない事情があったのです。それは釜炒り茶に限った事でなく、どの茶種も同じなのではないでしょうか。湯呑に入ったお茶の水色は「黄金色」が主流だった時代から、限りなく鮮やかな緑色の水色が好まれる時代です。

この写真は我が家で現在も作っている二種の釜炒り茶です。



昔風の釜炒り茶(左)と今の釜炒り茶(右)

# トピックス

## 「上益城茶青年会がインスト試験に挑戦」

熊本県茶業青年会上益城支部(以下上益城茶青年会、野口潤二会長、会員10名)は、3月23日に開かれた総会で今年度の活動の一環として日本茶インストラクター認定試験に上益城茶青年会全員で挑戦することを決定されました。今回の決定にいたる動機は、昨年の全国お茶まつりでの我々県支部の活躍ぶりに感銘されたからだそうです。

## 認定試験へ向けての取り組み

は、通信講座を受けながらみんなで勉強を重ね、認定試験に向けて頑張っていくそうです。(4月1日現在、7名の方が名乗りを上げておられるようです。また、刺激を受けられた他地区の青年会でも挑戦してみようという動きがあるようです。)

## 「川上さんが中学社会科教材に登場」

川上誠一さんが、中学社会科の副教材の中に、熊本のお茶を生産するエコファーマーとして登場することになりました。

これは学校教育新指導要領の今年度から教育内容の一部改訂にもない、特に地域的に環境などを取り扱うことになり、今回、授業で活用していただくために東京書籍という出版社が補助資料として全国の先生方に配布するものです。

この資料の中で取り上げられるエコファーマーについてのの中で、エコファーマー登録者全国第三位を誇る熊本県の主要農産物生産者の一人としてインタビュー記事掲載するにあたり、「熊本茶」をアピールしようということ、川上さんに登場していただくようになったようです。

## 出版社から先生方に副教材としての配布予定は6月ごろになりそうですが、学校教材の中に熊本茶を紹介できるよい機会になりそうです。

## さがそう一市川支部長語録

県支部総会よりスタートした市川支部長体制。支部長の超元氣なあいさつで始まりましたが、人生経験豊富な支部長だけに人生の教訓ともいえる言葉が出てきます。そこで総会時に出てきた言葉をいくつかご紹介。

「出会いを求めていくと、人生が変わる」(支部長の父上の言葉を引用された言葉でした)

「利益を生むためには、自分が楽しまないといけない」(自分が人生を再スタートするにあたり感じられた言葉でした)

さあ、これからもどんどん出てくるかと思えます。皆さんも人生の指針として、捜していきましょう。

## 二十一年度支部活動計画を決定

3月14日に今年度1回目の役員会が開かれ、総会において役員会にて検討するようになっていた議案を含め今後の活動日

程などを決定しました。支部の主催する事業の日程が決まったものは次の通りです。

○百円茶屋 in 人吉城 5月2、3日

○お茶通りズム in 山都町 5月9日 藤原茶園

○釜炒り茶づくり体験 5月16日 芦北町

○烏龍茶づくり体験 8月8日 美里町

○晩茶づくり体験 8月22日 山都町

○人吉一中「お茶づくし」10月予定 人吉市

○お茶いっぱいの日 11月23日熊本市

今年度後半についてはこれからも順次計画され、役員会を経て皆さんにお知らせされるようになります。

なお、今後は支部の連絡についてメールを活用していくことを決定し、準備を進めることになるそうです。

## 事務局、茶業研究所へ異動

三月は進学、就職、そして異動の時期ですが、当支部事務局の坂本が、上益城地域振興局の普及員から、県農業研究センター茶業研究所の研究者として異動することになりました。

「古巣に帰る」とも言えるかもしれませんが、「よりお茶に特化した活動ができることになり、支部活動もやりやすい環境が整えられるのではないかと思います。奮闘に期待しましょう。」

# ティーム

## 「ソノシート」BN006の音源制作

「ソノシート」といえば、懐かしい響きを思い出されそうなビニール製のカラフルな薄いレコード盤。実はヨーロッパ生まれの「ホロシート」と呼ばれるものですが、日本では日本ソノラマという会社が童謡の本に主題歌を入れたホロシートを付録で付け、爆発的な人気になったために「ソノシート」と呼ばれるようになりました。当時人気だったフォークグループなども相次いでソノシートのレコードを出していましたが今はほとんど見かけなくなりました。CDにとって替わった2005年まで製造されていたというのは驚きですね。